北八が岳　スノーシューハイク

1.コースタイム

2 月 21 日：R 299（メルヘン広場、12：45）～麦草ヒユッテ（15：10/15：40）～
丸山（16：30/16：40）～ヒユッテ（17：20）　行動時間：4H05

2 月 22 日：ヒユッテ（7：05）～茶臼山（8：15/8：22）～縞枯山（9：15/9：45）
～ピタラス頂上駅（10：05/10：40）～五辻～駐車場（12：30）
行動時間：5H25

2.参加者：清岡　池田、関本、小林、伊藤、宮本、八尾、会員外１名（8 名）

3.概要

木が呼吸してかどうかわからないが、何かの振動でパラパラと雪が舞う。春の光にキラキラ輝く粉雪。そんな光景を見ながら、メルヘン街道を前へと進む。気温１５度。２月後半ではあるが、２月とも思えないぽかぽか陽気。展望台を過ぎたところで、「ア！鹿だ　左左　」　と大きな声を張り上げているのに、びくともせず、また逃げ出しもしない。立派な角をもった鹿が我々を見送ってくれた。長い街道を歩くこと２時間半。やっと麦草ヒュッテに到着。宿泊の手続きを済ませ、これからピストンで丸山へ。かなりの登り。疲れているはずなのに、皆元気。ピーク(2329m)の道標は雪の下。最高の天気、澄んだ青空、はるか前方に天狗岳がくっきり見えた。木々は重いほどの雪をかぶり、さまざまな形を作っているが、昨年に比べるとなんとなく小さい雪のモンスター、少し迫力不足。集合写真を撮って下山。往復２時間もかからなかったようだ。

夕食６時半。待ちきれず食事前の宴会。夕食後２回目の宴会。

朝食をとりながら、窓の外を見ると木々が随分揺れていた。寒いだろうな。

出発の準備を終え外に出ると生暖かい風。予想外だった。朝から雨かもと思っていたので、ラッキーだった。茶臼山に向かった。はっきりしたトレースがあり、案外楽に登れた。が時々、両側から迫り来

る枝、枝で四苦八苦する時もあった。ピーク(2384m)にザックをおいて、IとYは展望台へ。昨年は目の前に広がった山々が、今日は厚い、分厚い雲に覆われ、視界ゼロ。ピークに戻ったところで、全員が揃っての記念撮影。続いて縞枯山に向かった。だだっぴろいところで強風にあおられた。風をさえぎるものがなく、トレースは消えていた。戻った。IとY皆が来るまで木の陰で待とう。待った。ほんの一瞬後を追ってきたMが先に行ってしまった。 Mを追って急いだ。ピーク(2403m)で、強風を避け、木を背に座っていた M を見た。皆安堵の胸をなでおろした。全員揃って急な坂道を下り、縞枯山荘を経由、ピタラス頂上駅に到着。そこはスキー客、登山客でにぎわっていた。屋内で休憩。心温まった時間だった。少し長めの休憩後、外に出た。下界は春の光が積もった雪に反射し、白く輝いていた。森林浴展望台からは南アルプスが一望できた。やはり山に登れば
３６０度の展望を期待する。しかし今日は流れる雲の隙間から、一瞬ではあるが青空も見えた。南アルプスも見ることができた。上々である。帰り五辻からショートカットでメルヘン街道へ、出逢の辻からメルヘン街道へ、の二手に分かれ駐車場を目指した。
スノーシューだからこそ新雪の中を進み続けることができる醍醐味を存分に味わうことができた。楽しい山行だった。

報告者：八尾鈴子